

# 右岸における短中期的な 樹林地の管理方針(案)

# 1 カタクリの現状

稲荷山公園基本計画（整備イメージ）では、「都心近くに位置しながら、カタクリ群生地をはじめ、雑木林や湧水池など、貴重な自然が保全され、豊かな環境を楽しみ、身近なみどりの中でくつろげるオアシスを目指し整備する。」としています。

## 現在の状況

- ・ 現在、清水山の森の傾斜地および稲荷山憩いの森の湧水池東側の樹林地内などに、カタクリの開花が確認できる。
- ・ 清水山の森のカタクリ生育域は、平成29年から、開花時期以外は閉鎖管理を行っている。
- ・ 平成25年度に区が行った調査では、清水山の森には、約10万8千株（推定）のカタクリが群生している。
- ・ 令和6年：閉鎖区域の公開期間 3/8～4/15（39日間）  
開花の見ごろ 3/27～4/4

## 区民からの声

- ・ 清水山の森では、樹木が大きく育ちすぎていて、次世代の樹木が育っていない。【活動団体より】
- ・ 清水山の森のカタクリは、サビ病にかかっているものが多く、**サイズは小さめ**である。一方、稲荷山憩いの森のカタクリは、大きな個体が多い。【活動団体より】
- ・ 令和6年度は、**短い花茎の株が多く見られた**。また、開花中の花被片の痛みが早く見られ、見ごろの期間を経過した後は、急速に終末を迎えた。【活動団体より】
- ・ 昭和60年頃の清水山の森のカタクリは、絨毯のように開花していた。【地元住民より】
- ・ 右岸のカタクリは今よりも大きく、色もきれいであった。【地元住民より】

## 【カタクリの自生環境】

- ・ 地形条件は、傾斜30度以下の北向き傾斜の下部ないしは谷部
- ・ 植生は、クヌギやコナラなどの落葉広葉樹林、林床は、ニリンソウ、イチリンソウなどの春植物の常在度の高い植生
- ・ カタクリの生育に適した土壌条件を指標する植物は、キツネノカミソリやヤマブキ、ニリンソウ、イチリンソウなどの湿潤地を好む種群



（カタクリ個体群の形成ならびにその個体群の育成管理上の指針（養父志乃夫氏 著）

## 清水山の森に対する養父志乃夫氏の意見 （令和6年3月中旬に視察）

- ・ 清水山の森は、高木の生長による土壌水分の吸収が原因で土が乾いている。
- ・ カタクリ生育の適地土壌の指標植物であるキツネノカミソリの葉が短い理由も水分量が影響していると思われる。
- ・ 土壌水分の影響で、一枚葉がみられる。
- ・ 土壌の乾燥化の防止は、高木の生長を抑制する必要があり、択伐ではなく、枝を剪定し、蒸散量を減らす方が良い。
- ・ さび病の原因ともなるので笹刈りは地際で行う方が良い。

## 2 希少な植物の保全に向けた樹林地の管理方針（短中期的な維持管理(案)）

### 現在の管理方法

- ・ 枯損木や倒木の危険のある樹木の伐採（適宜）
- ・ 民有地や園路に影響を及ぼす樹木の剪定（適宜）
- ・ 外周部や隣接地沿いの草刈り（年3回5月～10月）
- ・ 落ち葉かき
- ・ 笹刈り（年1～2回）

### カタクリなど希少な植物の保全に向けた今後の短期的な管理方法

- ・ 高木の蒸散量を抑える剪定（時期は1月または5月）  
（頻度は年1回）

### 今後の中期的な管理方法(案)

	管理方法	課題
萌芽更新	小面積皆伐 + 剪定 つる取り 下草刈り 落ち葉かき	老齢木であるため、 <u>伐採しても萌芽する確率が低い</u>
老齢木更新	伐採 剪定 つる取り 下草刈り 落ち葉かき	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 定期的な樹木の健全度調査が必要</li> <li>・ 望ましい立木密度への調整が必要</li> </ul>

いずれの管理方針でも**苗木の育成**が必要となる

#### 【苗木の育成】

清水山の森の樹林地内で採集した種子を播種して苗木を育成

○育成場所の選定  
数量や密度の検討

○種子の採集  
高木層を構成する樹種中心 コナラ、クヌギ

○表土撒き出しによる種子の育成  
種子採集できない種

○実生の育成  
林床の実生をマーキングし育成

モニタリングによる継続調査